

**2022年度事業報告書**  
(2022年4月1日～2023年3月31日)

**事業の状況**

**1. 助成事業**

当財団は、情報科学の国際的研究交流を推進することを目的とした助成事業として、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を行う。

**1.1 研究者交流助成及び外国人研究者交流助成**

研究者海外派遣助成は、将来を担うべき有能な若手研究者を対象に海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成する。外国人研究者交流助成は、将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成する。前年度に引き続き、本年度も COVID-19 の影響による海外渡航制限があり、国際会議の開催方法がオンラインを利用したデジタル開催や現地のオンサイト開催も併用したハイブリッド型が主流であったことを踏まえ、助成事業の主旨の範囲内において助成内容及び方法について一部変更し、以下のとおり実施した。

日本に在住する将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会に参加するための渡航費または参加登録費の一部を助成した。

**①募集・選考**

助成募集要項及び申請書は 2022 年 7 月 7 日に財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 195 ヶ所に募集案内を郵送した。7 月 7 日～9 月 30 日の期間公募を行い、31 件の申請があった。

10 月 27 日にオンライン会議システム(Zoom)で選考委員会を行い、審査のうえ 10 件を採択した。

**②決定・交付**

選考委員会の選考結果を受け、理事長が 2022 年度助成金交付対象 10 件を決定したが、その後、渡航を取り止めてオンライン参加に変更した由の辞退申し出が 1 件あり助成取り消しとした。

下記表のとおり 9 件(渡航費助成 8 件、会議参加登録費 1 件)に対し助成金の交付を行った。

助成総数 9 件、助成金交付総額 1,780,000 円

氏名・所属	参加国際会議	開催国	助成内容 助成金額
松根 喜生 立命館大学大学院情報理工学 研究科 修士課程 2 年	2022 ACM SIGKDD International Conference on Knowledge Discovery and Data Mining	アメリカ	渡航費等 250,000 円

氏名・所属	参加国際会議	開催国	助成内容 助成金額
五十嵐 雄也 立命館大学大学院情報理工学 研究科 修士課程 2年	The 26th ACM International Symposium on Wearable Computers - ISWC 2022	イギリス	渡航費等 220,000 円
藤本 春奈 筑波大学大学院人間総合科学 学術院 博士前期課程 2年	European Conference on Machine Learning - ECML PKDD 2019	マルタ	渡航費等 220,000 円
大見 士 豊橋技術科学大学大学院工学 研究科 博士前期課程 1年	The 4th International Conference on Activity and Behavior Computing - ABC2022	イギリス	渡航費等 220,000 円
山本 健太 筑波大学大学院人間総合科学 学術院 博士後期課程 2年	The ACM Symposium on User Interface Software and Technology - UIST 2022	アメリカ	渡航費等 250,000 円
小林 周平 京都大学大学院情報学研究科 修士課程 1年	The 21st IEEE/WIC/ACM International Conference on Web Intelligence and Intelligent Agent Technology	カナダ	渡航費等 250,000 円
橋田 紘明 東北大学大学院情報科学 研究科 博士後期課程 2年	IEEE Global Communications Conference - GLOBECOM	ブラジル	渡航費等 250,000 円
中西 優斗 豊橋技術科学大学大学院工学 研究科 博士前期課程 2年	SIGGRAPH Asia 2022	韓国	渡航費等 80,000 円
吉田 基信 徳島大学大学院創成科学 研究科 博士前期課程 1年	14th International Conference on Knowledge Engineering and Ontology Development - KEOD2022	マルタ	登録費 40,000 円

## 1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学の研究者が協同で行う調査研究交流に対する助成であるが、本事業については休止している。

## 2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会の開催及び関連する事項について以下のとおり行った。

### (1) プログラミングコンテスト(ICPC2022)開催

競技開催費： 10,208,271 円

ICPC Foundationが年1回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)のアジア地区予選としてICPC2022横浜大会を慶應義塾大学と共同で開催した。

## ①経緯

開催協力校(ホスト校)を慶應義塾大学が務め、ICPC2022 横浜大会を行うことを ICPC 運営委員会の決議を経て理事長が決定した。

## ②実施概要

日程： 2022 年 12 月 27 日、28 日

場所： 横浜産貿ホール(神奈川県横浜市中区山下町 2 番地)

主催： (公財)情報科学国際交流財団、ICPC 横浜大会実行委員会、慶應義塾大学

実行委員長： 高田眞吾教授(慶應義塾大学)

審判長： 鶴川始陽准教授(東京大学)

内容： ICPC は大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストである。世界大会出場のための選抜大会として世界各地で地区大会が行われており、本大会はアジア地区予選に該当する。本選に先んじて、国内インターネット予選を 2022 年 7 月 8 日に行った。COVID-19 の影響を鑑み、参加条件等を緩和した 2022 国内予選特別競技ルールを作成のうえ実施し、82 校 298 チームから選抜ルールに則り 27 校 40 チームを選抜した。海外から条件を満たす参加登録が無かったため、さらに国内から 3 校 3 チームを繰り上げとし、最終的に 30 校 43 チームが本選に進出となった。

本選は 2022 年 12 月 27、28 日に横浜産貿ホールにおいて 3 年ぶりにオンサイトで行った。運営実施については COVID-19 に関する情勢と各地の状況を総合的に考慮し、感染予防対策として一般的な対策に加え、参加者の接触機会を少なくするために移動回数を減らすなど時間の短縮を図り、下記のとおり実施した。

- ・ 受付やスタッフ出入口に消毒液設置のほか、コーチ・選手には個別にウェットティッシュを配布
- ・ マスク着用の徹底(コーチ・選手には 2 日配布、スタッフ用には別途用意)
- ・ すべての参加者に対し最初に会場に入る際に検温
- ・ 受付デスクにアクリル板を設置
- ・ チーム間に十分な空間を確保した会場設営
- ・ 軽食、昼食及び飲み物は個別に用意して各机にあらかじめ配布し、黙食の徹底
- ・ クロークを設けず、コーチ・選手は荷物を各自の席まで持参
- ・ スタッフの移動を減らすため、正答に対しての風船配りは廃止
- ・ 選手の移動を減らすため、審判講評、結果発表及び表彰式の際はチームの机に着席のまま
- ・ 立食を含む懇親会は行わず、スポンサーブース周辺の空きスペースでの交流のみ
- ・ 例年より終了時間及び撤収の繰り上げ

なお、事前に 2 チームからコロナ罹患による選手欠席(各 1 名)の連絡を受け、他のメンバーについては濃厚接触者に当たらないことを確認し、両チームは共に選手 2 名で参加した。

実施に際し、国内チームのみではあるが国際大会であるため、出題や進行等のコンテストに関わることは英語で行い、5 時間にわたるコンテストを無事終え、引き続き審判団からの問題解説があり、

その後結果発表・表彰式を行った。終了後、別室に設けたスポンサーブースや空きスペースで選手を始め参加者が見聞を広める機会を設けるとともに交流促進を図った。

運営全般は、実行委員、審判団のほかに、ICPC の OB/OG の協力を仰いで行った。

参加数： 国内インターネット予選 82 校 298 チーム

横浜大会本選 国内 30 校 43 チーム

結果(大学順位)： 1 位東京工業大学、2 位東京大学、3 位京都大学

世界大会への進出チーム： 1 位の東京工業大学チーム以外は未定

世界大会の日程・場所： 未定

## (2) 東南アジア地区大会への派遣

国内予選で優秀な成績を収めたチームを東南アジア地区大会へ派遣する計画であったが、COVID-19 に関連した ICPC Asia Pacific 2022-2023 特別ルールにより、自国で予選大会を開催する国のチームが他の地区予選大会に出場できないことから、派遣は行わなかった。

## (3) 世界大会派遣(コーチ及び選手)

派遣対象者： 4 チーム(東京大学、東京工業大学、京都大学及び慶應義塾大学)のコーチ及び選手計 16 名

派遣補助総額： 計 2,370,540 円

2020 年度地区予選大会(ICPC2020 横浜大会)で選ばれた上記 4 チームを 2022 年 11 月 6～11 日にダッカ(バングラデシュ)で開催された ICPC2020-21 世界大会へ派遣した。世界大会は各地区予選から選抜された 132 チームが参加し、日本チームの成績は、東京大学 3 位(金メダル)、東京工業大学 13 位、京都大学 16 位及び慶應義塾大学 41 位であった。

## (4) 世界大会派遣(指導者)

派遣対象者： 笥捷彦 ICPC 運営委員長、石畑清 ICPC 運営委員及び高田眞吾 ICPC2022 横浜大会実行委員長

派遣総額： 計 430,426 円

前述の世界大会会期中に行われる指導・運営に関する会議に上記 3 名を派遣した。

## (5) ICPC2023 の開催

ICPC 運営委員会において、2023 年度 ICPC について、開催協力校として東京工業大学を選定、大会委員長に西崎真也教授(東京工業大学)及び審判長に鶴川始陽准教授(東京大学)をそれぞれ選任し、2023 年 11 月に横浜産貿ホール(神奈川県横浜市)において ICPC2023 横浜大会を開催することを理事長が決定した。

以上